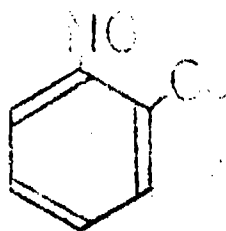


〇ークロロニトロベンゼンの濃縮度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和51年3月15日～昭和51年7月5日
2. 試料名 〇ークロロニトロベンゼン (試料No. K-84)
分子式 $C_6H_4ClNO_2$
構造式



3. 試験方法及び条件

環保業第5号
薬発第615号 } 魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験によ
49基局第392号 }

3.1 試験装置及び機器

- (a) 水系環境調節装置 流水式
- (b) ガスクロマトグラフ 検出器 ECD

3.2 試験条件

3.2.1 TLm試験

(a) 試験魚

ヒメダカ平均体重 0.25 g、塩化第二水銀検定合格魚

※田端 健二 用水と廃水 14 1297～1303 (1972)

(b) 分散剤及び分散法

分散剤 硬化ヒマシ油 (HCO-40), オリーブ油

分散法 試料: 硬化ヒマシ油: オリーブ油 = 1:4:1 の
比で秤量し、これに水を加えて 5000 ppm の原液
製した。

(c) 試験温度

25 ± 2℃

(d) 結 果

48 時間 TLm 値 28 ppm

3.2.2 濃縮度試験

(a) 試験魚

コイ 平均体重 約 30 g

平均体長 約 11 cm

(b) 試験温度

25 ± 2℃

(c) 試験濃度

設定値 48 時間 TLm 値を参考に設定した。

$$\text{第 1 濃度区} \quad 28 \text{ ppm} \times \frac{1}{100} \approx 0.25 \text{ ppm}$$

$$\text{第 2 濃度区} \quad 28 \text{ ppm} \times \frac{1}{1000} \approx 0.025 \text{ ppm}$$

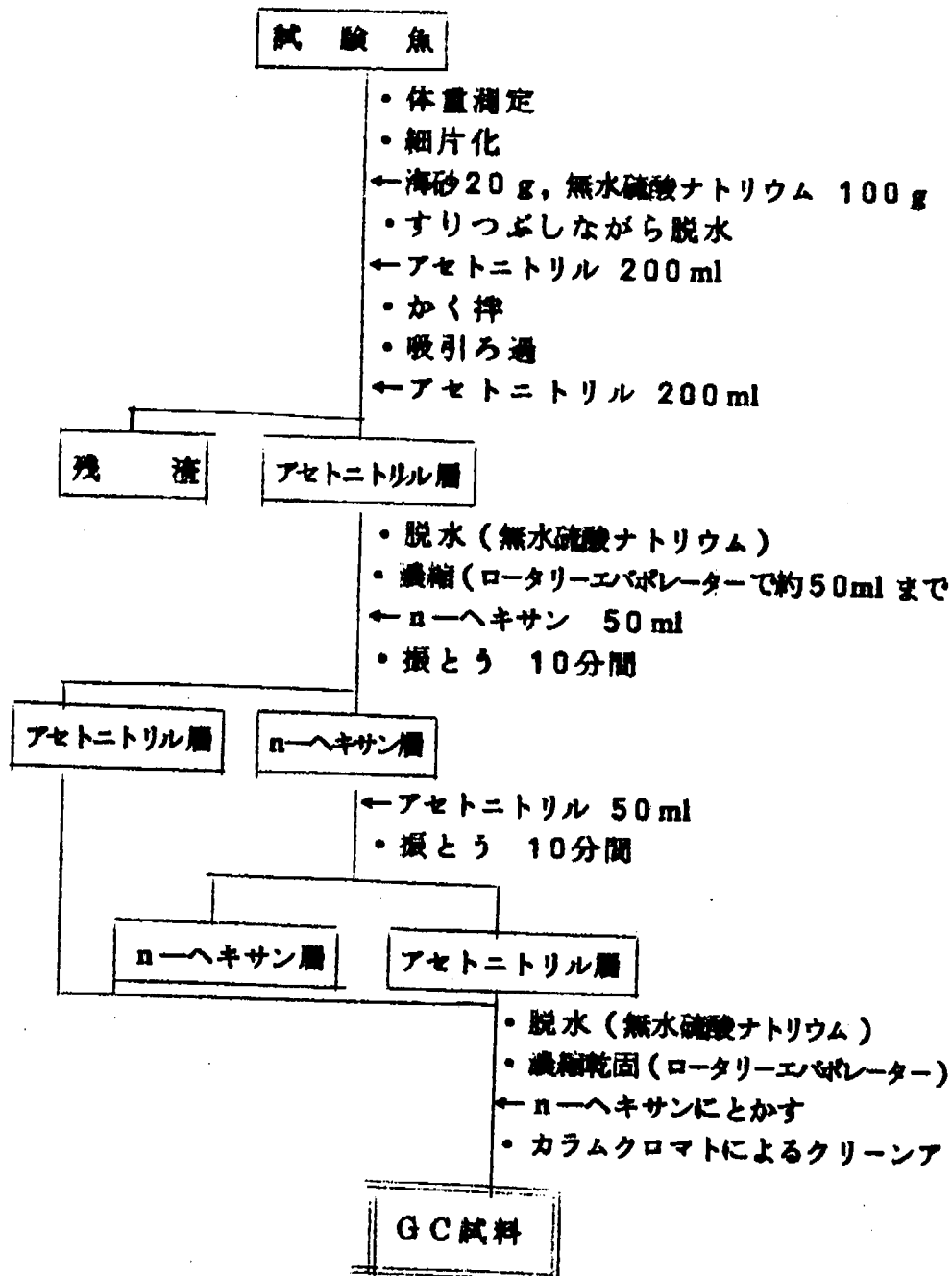
区 分	試料濃度 ppm	分散剤濃度 ppm	
		硬化ヒマシ油	オリーブ油
第 1 濃度区	0.25	1.0	0.25
第 2 濃度区	0.025	0.1	0.025

実測値

表一 1 濃縮倍率を求めるための平均濃度 (ppm)

	2W	3W	4W	6W	8W
第 1 濃度区	0.234	0.231	0.236	0.241	0.239
第 2 濃度区	0.0227	0.0221	0.0224	0.0244	0.0249

3.2.3 分析試料の前処理



※ 充てん剤 シリカゲル (ワコーゲル C-200)

3%含水調製, 8g

クロマト管 20mmφ×30cm ガラス製

溶離液 n-ヘキサンにとかした全試料を負荷する。

第1フラクション n-ヘキサン 100ml

第2フラクション 10%エチルエーテル含有n-ヘキサン
50ml

この分画に溶出する。

3.2.4 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 ECD

キャリアガス N_2

充てん剤 PEG-20M 5%

ダイヤソリッド L 80~100メッシュ

カラム ガラス 2mmφ×2m

カラム温度 165℃

4. 試験結果

表-2 濃縮倍率

	2 W	3 W	4 W	6 W	8 W	付 図	付 表
第1濃度区	13.5	17.7	13.9	7.6	10.7	14.5	3.4, 6
	20.8	12.6	7.0	7.8	9.5		
第2濃度区	14.8	14.4	15.7	16.0	7.4	2.4, 6	3.5, 6
	12.9	22.3	18.7	11.4	10.3		

5. その他

操作上特に問題点はなかった。

以 上